

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000788		
法人名	有限会社アイケア小樽		
事業所名	グループホームアイケアおたる		
所在地	〒047-0017 北海道小樽市若松2丁目1番18号 (電話) 0134-21-3222		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年5月1日

【情報提供票より】 (平成21年1月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算	17.0人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	26,000～35,800 円	
敷 金	⑤ (58,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道済生会小樽病院、三ツ山病院、市村歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域住民が多数利用する当事業所は、高齢化が著しい自治体において、地域住民の心の支えとなっている。大きな特徴としては、地域からの利用が非常に多いほか、自宅での生活のままに、環境を変化せず利用ができるように配慮し、利用者の安心安定につながっている点である。施設長、計画作成担当者、職員は、介護や高齢者と接する経験が豊富であり、さらにチームワークを保ちながら、サービスの質の向上に熱意を持って取り組んでいる。具体的には、記録記載についての研修を実施し、その成果を活かしながら、毎月介護記録の複写を家族に郵送し、利用者の状態を伝えるほか、近年は、言語及び音楽療法を導入して、利用者の生活の向上に努めている。今後も、さらなる充実が見込まれ、期待が持てる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の実施により、前回の改善項目については、課題が明確になっている。しかし、改善計画シートを作成し、計画性を持って改善に取り組むまでには至っていない。今後は、課題を明らかにするとともに、対応や改善に向けての方策を具体的に盛り込んだ改善計画シート等を基に、取り組むことが期待される。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は、自己評価表の項目の内容により分担を行い、全職員が関わりを持って評価を行っている。また、自己評価時に前年度の外部評価の見直しも行っており、多数の改善の項目を検証しながら、さらなるサービスの質の向上に反映させている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を、定期的で開催するまでには至っていない。日程調整の不調、事業所内の人事異動等が重なり、体制が固まらないことが大きな要因であるが、今後は、定期的な開催が望まれるとともに、運営全般についての意見交換がなされ、運営に適切に反映されることが期待される。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との関係は良好であり、コミュニケーションを十分図っている。職員は、家族の面会時等に、利用者の日常生活の様子を口頭で伝えている。また、介護記録の記載の研修を行い、よりわかりやすい介護記録となるようにしており、その複写を家族に郵送するなど、利用者の日々の生活の様子を鮮明に伝える工夫をしている。さらに、家族の意向を汲み取る体制も充実しており、家族の意向が今後も一層運営に反映されることが期待できる。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に地域との交流を十分図っており、事業運営やサービス提供の場面に活かされている。利用者は、事業所の近隣地域で長年居住し生活していたこともあり、地域になじんだ良好な関係を形成している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の大半は、以前から事業所周辺で生活し、地域と密接に関わっており、事業所では、「その人らしい生活」を理念に掲げ、長年生活した地域で引き続き継続した生活を送ることを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を定め、事業所内に掲示している。また、会議や申し送り時など、職員が集まる場面で理念を再確認し、サービス提供の場で実践するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とは、事業所に隣接する畑の園芸作業や散歩時に、挨拶や会話を交わしている。また、町内会行事等にも参加し、地域と事業所の隔たりがないように配慮している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で分担し、自己評価を実施している。しかし、前年度の外部評価についての改善計画が未策定であり、具体的な取り組みについて明確にするまでには至っていない。	○	今後は、改善計画シートを策定するなど、計画的、かつ具体的に改善について話し合い、取り組むことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設長の異動に伴い、会議の開催に向けた体制を整備するために、多少の時間を要しているが、現在は定期的な会議の開催を実施しつつある。	○	今後は、定期的に会議を開催し、事業所運営に関わる全般についての意見交換を行い、サービス提供場面に反映させることが期待される。また、事業所の行事の企画等を会議で議題にしたり、地域住民にボランティア活動の一環として会議にも参加するよう働きかけるなど、運営推進会議への理解を促しなじみやすくなるような工夫も期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政窓口担当者とは、空室についての情報交換を行っている。今後はさらに、地域包括支援センターや関係機関とも連絡を密に行い、連携を強化しながら、サービスの質の向上に取り組む予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節ごとに事業所だよりを作成し、介護記録は月単位で複写し、それぞれ家族へ郵送して、利用者の生活の様子を伝えている。また、金銭管理については、本部職員が確認を行った後に、金銭管理台帳と領収証を毎月家族へ郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は多く、面会時に意見、苦情等を受け付ける体制は整備されている。また、意見箱を設置しており、随時文書による意見も受け付けている。意見については、フロアー会議等で検討し、サービス提供の場面に反映させるよう対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内部での職員異動はあるが、異動前から研修等を行った上で人事交流を行うなど、利用者へのダメージを最小限にする工夫をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を中心に、職員育成に努力している。また、研修参加後は、フロアー会議等にて、職員に研修内容の伝達を行うほか、施設長及び計画作成担当者が、職員のスーパーバイザーとして助言等を日常的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の利用開始にあたっては、居宅介護支援事業所等と情報交換を行うなど、利用開始時に利用者や家族に負担がかからないように日常的に交流を保っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の大半は事業所近隣の居住者であるので、長年住み慣れた地域での生活が継続できている。さらに、利用にあたり、関係者より情報収集を行い、スムーズなサービス利用の開始が可能となっているほか、事前に随時、事業所の訪問や見学等への対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が相互に共存できるように、日常の介護の場面で役割を設定しながら、関係づくりをしている。施設長は、毎月利用者の立場からみた目標を設定しており、職員は目標に沿った対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前の利用者の情報や、家族からの生活歴の聞き取り等から、利用者本人の嗜好や意向を職員は確認している。また、利用開始後も、家族や利用者から継続的に話しを聞き取り、サービス提供の場面に役立てるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、フロアー会議でカンファレンスを実施し、利用者の状態について細部にわたり検討を行っている。また、利用者及び家族からも意見を聞き取り、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを実施している。また、介護の認定期間の更新時や、介護度や日常の状況が大きく変化した場合には、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、グループホームとしての機能を維持しつつ、可能な限り多岐にわたり柔軟な対応を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を聴いて、主治医への受診を行っている。受診送迎等は家族対応が基本であるが、緊急性や家族の状況等を勘案しながら、随時対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、「事業所は生活の場である」ことを家族に説明し、医療職員の配置がないことへの了承を得ている。また、利用者の状態により適時説明を行いながら、重度化への対応についての確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護における個人情報の取り扱いについて、文書により家族に確認し同意を得ている。また、職員採用時には、業務上の守秘義務等についても説明を行っており、利用者の個人情報外部に漏洩しないよう対応している。さらに、職員は利用者に対して、個人の尊厳を大切にされた対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の希望や生活のペースを尊重しており、理念にある「その人らしく生活する」という考えを常に念頭に置きながら対応している。また、事業所内の日課はおおまかに決めているが、利用者の希望を優先した生活支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、献立の検討、買い物、食事の準備、配・下膳など、個人の能力に応じて参加している。また、献立は利用者の希望に沿って、変更することもあるなど、柔軟に対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週あたり2回の入浴機会を維持し、保清に配慮をしている。また、入浴は同性介助を基本に考えるなど、入浴を拒否することがないように十分に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの意向や希望に合わせて、偏りがないように配慮しながら、支援を行っている。また、季節ごとの行事を年間計画に予定しており、随時気分転換を行うように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所近隣への散歩、市場への買い物等、必要に応じて支援をしている。さらに、図書館への外出、港へのドライブ等、地域特性を活かした支援を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関を開錠している。夜間は、時間の定めはないが、おおむね遅番職員の退勤時より朝刊配達時程度まで、施錠している。夜間施錠時は、インターホンを活用し、面会等に支障がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画に防災訓練を予定し、実施している。訓練実施時は、消防署員の立会いを受け、実技指導を受けている。また、地域や町内会とも連携を図り、災害発生時には相互協力ができるように準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給チェック表及び介護記録にて、水分や食事の摂取状況を記録し確認している。また、嚥下が困難な場合には、食事形態を変更するなどの対応をしている。さらに、疾病による食事制限には、特別食の提供を主治医の助言を得て実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、天井が高く、開放的である。また、採光や脱臭に配慮をしており、快適である。今後は、四季にあわせたサインボードなどを設置することを検討しており、更なる充実が期待できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、家具、家財道具等、使い慣れた品々を、照明器具以外は全て持ち込んでおり、利用者にとって落ち着く空間を演出している。		

※  は、重点項目。